

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	金田地区 （富池・市野沢・練貫地区）	令和2年2月22日	令和6年3月19日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	615 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	508 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	132.15 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	77.61 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 （備考）	145.68ha

2 対象地区の課題

地区全体として、担い手の数は多いが、高齢化の進行、後継者不足が進行している。大部分が、圃場整備済または圃場整備予定地区であるが、一部荒れている農地がある。

富池地区では、圃場整備済であるが、圃場一枚一枚が大きい分、段状にもなっているため、畦畔の面積が大きくなり、草刈り等の維持管理が大変である。

市野沢地区では、深刻ではないが獣害の被害があり、一部荒れている農地がある。

練貫地区では、現状では圃場整備未実施で耕作条件には恵まれていない。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

富池地区では、ねぎ等、今後も地域の特性を活かした作物を継続していく。多面的機能支払の地区であり、また営農組合も存在しているので、当該活動を継続させ、農地の保全に努めていく。

市野沢地区では、圃場整備済の農地が多いので、今後も地区内での貸借を循環させていく。多面的機能支払の地区でもあり、活動を継続させ、農地の保全に努めていく。

練貫地区では、現在、圃場整備が進行中であり、今後の耕作条件の改善に期待がかかる。

若い担い手も多いので、今後は圃場整備済の農地を中心に集積・集約化を進めていく。

営農組合が存在しているので、当該活動を継続させ、農地の保全に努めていく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

圃場整備の取組方針

圃場整備済及び現在進行中の地区を中心に、農地中間管理事業等を用いた更なる農地の集積・集約化を推進していく。

多面的機能支払の取組方針

耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。

営農組合の取組方針

富池・練貫地区では、地域の農地の相互扶助のためにも、今後も地区内の農地の貸借を循環させ、営農活動を継続させていく。